

平成 22 年 4 月 27 日現在

研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19520051  
 研究課題名（和文） 『シュローカ・ヴァールティッカ』 綱要書に基づくインド祭事哲学体系の研究  
 研究課題名（英文） A STUDY OF THE BHATTA SCHOOL OF PURVAMIMAMSA: MANAMEYODAYA AND NITITATTVABHIRBHAVA  
 研究代表者  
 本田 義央 (HONDA YOSHICHIKA)  
 広島大学・大学院文学研究科・助教  
 研究者番号：80253037

研究代表者の専門分野：インド哲学  
 科研費の分科・細目：哲学・印度哲学・仏教学  
 キーワード：印度哲学

### 1. 研究計画の概要

インド正統哲学派のひとつミーマーンサー祭事哲学派は、人間の倫理・宗教の源泉をインド最古の文献であるヴェーダ聖典に求め、そのヴェーダ聖典の超越性を哲学的に基礎づけようとした。インドにおける真理論、言語論等は同派の思想を抜きにしては考えられない。本研究は、そのようなミーマーンサー学派の哲学的営為の全体像を、同派最大の学匠クマーリラ・バッタ（七世紀頃）の『ミーマーンサー・シュローカ・ヴァールティッカ』に対する綱要書『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』と『マーナメーヨーダヤ』に基づき解明しようとするものである。具体的には、まず第一に、『マーナメーヨーダヤ』の初の和訳研究を行う。第二に現行の刊本の校訂が不十分な『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』を写本及び注釈『ヴァーキヤー』を利用し再校訂する。第三に『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』和訳研究を行う。これらの作業を通じてミーマーンサー・シュローカ・ヴァールティッカ』の諸論点を明確に提示することをめざす

### 2. 研究の進捗状況

(1) 原典読解 研究初年度から既存刊本および三年目からは収集された写本に基づく『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』および『マーナメーヨーダヤ』の読解作業を継続している。  
 (2) 写本収集 平成 20 年度にタミールナドゥ州およびケーララ州において『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』とその注釈『ティーカー』『ヴァーキヤー』および『マーナメーヨーダヤ』の写本を収集した。『ニ

ーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』に対する注釈は未校訂・未出版であり、それらを利用して『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』を読解することは大きな意義をもつ。また、『マーナメーヨーダヤ』については既存刊本が用いた「写本」が実はデーヴァナガリ文字による転写であり、おそらくそれに先行する一刊本とデーヴァナガリ文字転写写本を利用して校訂されたものであると思われる。このことからこれらのテキストの再校訂作業の意義が確認された。

(3) 関連文献のデータベース作成 クマーリラ・バッタの『タントラヴァールuttiカ』のテキストデータベース化作業を継続中である。

### 3. 現在までの達成度

③やや遅れている

(理由)

議論の比較的良好に整理された『マーナメーヨーダヤ』にくらべて未整理の『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』の処理に時間を要していることによる。

### 4. 今後の研究の推進方策

収集予定であった写本のうちの一部について未収集のものがああり、それらの入手の方策を探る。また、『ニーティ・タットヴァーヴィルバーヴァ』『マーナメーヨーダヤ』の相互関係についての検討を要する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計1件）

本田義央「ナーラーヤナ・パンディタについて」『比較論理学研究』査読有 6号 2009年  
41頁-43頁

〔学会発表〕（計0件）